

連載

堤防とまちづくり

②

みんなの海を守りたい

2013年8月14日付
『三陸新報』1面

震災に負けず2年連続で海開きした、気仙沼大島の小田の浜海水浴場。ここでは、防潮林を守るための防潮堤（海拔4・3メートル）を、高さ11・8メートルで復旧させる計画があるが、昨夏から1年以上、表明した動きがないままの状態にある。

管理する県は当初、巨大な堤防が防潮林をはみ出してしまったため、原形復旧を検討していた。その後、守るべき県道や住宅地が背後にあることを理由に、明治三陸級の津波を防ぐレベル1堤防に変更している。

調整を続けている。今夏中に、計画案を地域に示す予定だ。◇ ◇ ◇ 関西学院大学などによる大島みらいチームが今年1月に実施した島民アンケート（1749人回答）では、住民が防潮堤よりも避難路や緊急放送、食料備蓄を優先すべきと考

えている砂浜を残すため、幅が50メートルある土手タイプの堤防は、海側に出ない位置に整備する計画。堤防で埋まる県道の移設が必要となり、駐車場やトイレなど海水浴場の周辺環境も含めて関係機関と

調整を続けている。今夏中に、計画案を地域に示す予定だ。◇ ◇ ◇ 関西学院大学などによる大島みらいチームが今年1月に実施した島民アンケート（1749人回答）では、住民が防潮堤よりも避難路や緊急放送、食料備蓄を優先すべきと考

えている砂浜を残すため、幅が50メートルある土手タイプの堤防は、海側に出ない位置に整備する計画。堤防で埋まる県道の移設が必要となり、駐車場やトイレなど海水浴場の周辺環境も含めて関係機関と

調整を続けている。今夏中に、計画案を地域に示す予定だ。◇ ◇ ◇ 関西学院大学などによる大島みらいチームが今年1月に実施した島民アンケート（1749人回答）では、住民が防潮堤よりも避難路や緊急放送、食料備蓄を優先すべきと考

えている砂浜を残すため、幅が50メートルある土手タイプの堤防は、海側に出ない位置に整備する計画。堤防で埋まる県道の移設が必要となり、駐車場やトイレなど海水浴場の周辺環境も含めて関係機関と

る」と見直しを求めている。「小田の浜は島の財産。みんなの海なので、地区の人だけでは決められない」という声もあつた。小田の浜は、市が原形復旧の高さで津波シミュレーションをかけ、災害危険区域を設定している。危険区域を避けて民宿を再建する男性は「今さら堤防が高くなるからといって危険区域を変更するなんて考えられない」と、市と県の連携不足を問題視する。

小田の浜
島の宝を失う不安
「9割以上が反対」
後世にツケを残す



小田の浜の模型を囲んで意見交換。「堤防不要論」も出た

安全な場所に避難。津波から避難しやすい地形であることを証明した。海水浴場への堤防整備は、大谷、お伊勢浜でも計画されている。いずれも砂浜を残すための手法を検討しているが、コンクリートで覆われた堤防への抵抗感などは解消されずにいる。（今川悟）